

自然を活かし、大切に作る有機農業と農福連携 合同会社自然農業社(壮瞥町)



【合同会社自然農業社】

【組織等の概要】

- 代表: 小田 大介
- 経営面積: 約10ha(有機農業)
- 有機JAS認証取得品目: ズッキーニ、玉ねぎ、大根、じゃがいも(キタアカリ、マチルダ)、にんにく、さつまいも、ビーツ、小豆、黒豆、大豆
- 有機JAS認証年月日・認定機関・認定番号:
2015年6月19日・JASCERT・A15-061901
- 就労継続支援A型: 定員20名
- 連絡先TEL : 0142-66-2141
- ホームページURL : <http://sizen-agricompany.com>

※取材: 要相談

【取組の経緯と概要】

- ◆ 代表の小田さんは環境問題に関心があり、農業を始めるなら有機農業に取り組みたいと思い、平飼い養鶏と有機農業、農福連携を行っている合同会社たつか一む(以下「同社」という。)に就職。
- ◆ 同社で約10年間の有機農業、農福連携について学んだ後、同社の畑作部門を引き継ぐ形で独立し「合同会社自然農業社」を設立。
- ◆ 同社で働くまで「農福連携」については知らなかったが、障がいのある人が自立するための手助けをする活動ということを知り、独立する際に就労継続支援A型事業所として登録。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 農福連携を行う際の冬季の作業場所と作業の確保。
→ 冬場に豆の選別作業を行っていたが、作業量が足りなかったうえ障がい者の中には不得手の者も多かった。そのため、大根を「切り干し大根」に加工することで、冬季の作業を確保し、利益も見込めるようになった。
- 有機農業は気象条件や害虫の大量発生によって、特定の農作物に与える影響が大きい。
→ 多種多様な農作物を生産することで、リスクの分散を図っている。

【取組について】

- 圃場は山の近くにあり作物を食べる害虫は多いが、生態系が豊かならば害虫が増えても天敵が食べてくれるので、害虫が増えすぎることはないと考えている。農作物が害虫により大きな被害を受けた場合は、その農作物が土地に合っていなかったと判断し、自然の中で無理なく育てられる農作物のみ有機農業で生産している。
- 農業は工場などとは違い、様々な作業があるので、障がい者一人一人の適正に合わせた作業を提供できる。



【黒豆の収穫作業】

【今後の展望】

- 農業で安定した利益を確保することで、利用者の賃金向上を実現し、自立支援の一助を担っていきたい。
- 2021年から作付けを始めたビーツ、さつまいもの生産面積を拡大したい。